



CAST



田中 雅代 | 波瑠

ホテルローヤルの一人娘。ホテルの娘であることに反発して過ごしてきたが、美大受験に失敗し、渋々家業を手伝う。後に継ぎ女将となり、訪れる人々を傍観しながら黙々と仕事に励む。



宮川聰史 | 松山ケンイチ

アダルトグッズの製造販売業、豪島商会の営業。雅代たちからは“えっち屋さん”と呼ばれ、物腰が低く温厚な性格。妻の言いつけを守り白砂糖を控える生真面目な一面も。



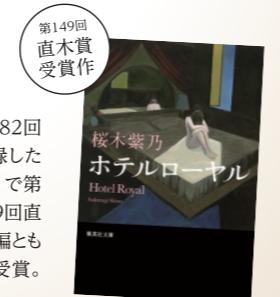
田中 大吉 | 安田顕

ホテルローヤルの経営者。野心家で、元々は塗装作業員だったが、雅代の母と出会いホテル開業を決意。雅代のことは大事に思っているが、言葉が足りないため愛情が伝わっていない。

ORIGINAL

原作 | 桜木紫乃

「ホテルローヤル」(集英社文庫刊)



1965年北海道釧路市出身。2002年「雪虫」で第82回オール讀物新人賞を受賞。2007年、同作を収録した「水平線」で単行本デビュー。2013年「ラブレス」で第19回島清恋愛文学賞、「ホテルローヤル」で第149回直木三十五賞を受賞。今年、「ホテルローヤル」の続編ともいえる最新作「家族じまい」で中央公論文芸賞を受賞。現在も北海道在住。

STORY

孤独を抱える人々は「非日常」を求め、扉を開く――
北海道・釧路湿原を望む高台のラブホテル。
雅代は美大受験に失敗し、居心地の悪さを感じながらも、家業であるホテルを手伝うこと。アダルトグッズ会社の営業、宮川への恋心を秘めつつ黙々と仕事をこなす日々。甲斐性のない父、大吉に代わり半ば諦めるように継いだホテルには、「非日常」を求めて様々な人々が訪れる。子育てと親の介護に追われる夫婦、行き場を失った女子高生と妻に裏切られた高校教師。そんな中、一室で心中事件が起これ、ホテルはマスコミの標的に。さらに大吉が病に倒れ、雅代は否が応にも、「自分の人生」と初めて向き合っていく…。

札幌フィルムコミッション
Sapporo Film Commission

映画『ホテルローヤル』のロケについて

映画『ホテルローヤル』の撮影は2019年5月～6月に、全編北海道で行われました。札幌フィルムコミッションは、準備段階から市内ロケ地の提案・調整、ロケハン同行、撮影立ち合い、ボランティアスタッフ・市内専門学校のインターン生の手配を行い、公開に向けたプロモーションなど、本映画制作を全面的に支援しています。

特に劇中のメイン舞台となった札幌市南区にある『北海道青少年会館コンパス・紅櫻公園・HTB創成スクエアスタジオ』等では映画セットを組み立て、約3週間にわたり撮影しました。札幌市内における大規模なセット撮影の可能性を示した作品となり、市内の映画撮影等、文化活動の促進にも寄与しました。

映画を観て、ロケ地を知り、その場所を巡ることで新しい札幌市・釧路市の魅力を知っていただききっかけになれば幸いです。

札幌フィルムコミッション
(一般財団法人さっぽろ産業振興財団 映像産業振興課)

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1 札幌市産業振興センター
電話: 011-817-5711 E-mail: info@screensapporo.jp URL: https://www.screensapporo.jp

ツイッター: @ScreensApporo
Facebook: https://www.facebook.com/ScreensApporo

発行: 札幌フィルムコミッション 発行年月: 2020年10月



札幌フィルムコミッション × ホテルローヤル



札幌や釧路などで、全編撮影された本作。口ヶ地、小道具、キャストへの差し入れを知つて、訪れ、手に取つて…。

本作が織りなす心象風景を、もっとリアルに。

Sapporo Film Commission
札幌フィルムコミッション 支援作品
札幌市映像制作助成金 Sapporo City Subsidized project

波 瑠
松山ケンイチ
余貴美子 原扶貴子 伊藤沙莉 岡山天音
正名僕藏 内田慈 富手麻妙 丞威 稲葉友
斎歩 友近／夏川結衣

安田 顕
原作: 桜木紫乃「ホテルローヤル」(集英社文庫)
監督: 武正晴 脚本: 清水友佳子
配給・宣伝: ファントム・フィルム
©桜木紫乃 / 集英社 ©2020 映画「ホテルローヤル」製作委員会

累計発行部数 100万部超え、直木賞受賞作が待望の映画化

ホテルローヤル

11.13 金
ROADSHOW

北海道で
全編撮影

